

Intervista 参加者の声



馬場 光男 さん
(青笹町)
Mituo Baba

歴史薫る街並みに感動

イタリアでは、歴史的な建造物が大切に保存されているだけでなく、今なお使われていることに驚きを覚えました。古いものを大切にすることが、市民生活に根付いているのでしょう。初めてサレルノの街を歩き、その歴史ある街並みに感動しました。遠野でも、古いものに価値を見出しながらまちづくりを進めていくべきだと思います。



菊池 悦子 さん
(宮守町宮守)
Etuko Kikuchi

次は私たちがおもてなしを

歓迎パーティーで、思い切って趣味の作品を披露しました。サレルノの皆さんから「ブラボー」と拍手を頂き、その温かい人柄に感激しました。言葉の壁を越えて友情を深められたという経験が、何よりのお土産です。次は私たちがサレルノの皆さんを歓迎する番。遠野らしい心のこもったおもてなしで、友情をさらに深めたいですね。



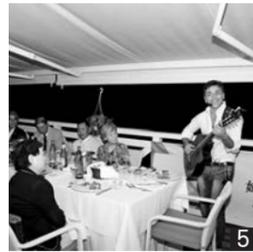
菊池 眞貴子 さん
(早瀬町)
Makiko Kikuchi

観光地のこだわりを発見

観光に携わる仕事をしているため、サレルノをはじめ、イタリアの観光へのこだわりが参考になりました。ペランダやバルコニーにさりげなく飾られた美しい花。有資格者による観光ガイドなど、どれも素晴らしかったです。観光地として、遠野が他の地域より一歩先を行くためのヒントを、サレルノからたくさん吸収できました。

訪問の様子は遠野テレビで一。

サレルノ訪問団の滞在の様子をまとめた特別番組を遠野テレビで放送します。ぜひ、ご覧ください。放送日時▷ 8月30・31日、15時～、20時～



1_式典の後の記念撮影 2_サレルノ市から贈られた盾。日本語とイタリア語で「友情」の文字が刻まれている 3_グエッラ文化担当大臣(右)から記念品を受け取り、固い握手を交わす本田市長 4_式典では今後の交流の継続を誓った 5_歓迎パーティーでカンツォーネが響く 6・7_サレルノ国際映画祭実行委員長に「遠野賞」の盾を手渡す 8・9_本市に滞在して日本語を学び、今回通訳してくれたアントネッラさん(右)ら4人に、遠野産木材で作られた遠野親善大使委嘱状を贈呈 10_サレルノ発見ツアーでは、歴史的建造物などを見学 11_今後の交流に期待が高まるアマルフィ市の世界遺産「アマルフィ海岸」 12_訪問団はローマやミラノなどの観光地も巡り、イタリアの文化を肌で感じた

その日の夜には歓迎パーティーが開かれ、両市民は30年を振り返り、思い出話に花を咲かせました。カンツォーネや日本の歌を一緒に歌うと、会場は一つに。また、市民有志が手品を披露するなど盛り上がりがありました。参加者は言葉の壁を越えて心を通わせ、未永い交流を誓い合いました。

国を越えて一つに

交流の発展を誓いました。また、本田市長らはサレルノ市と交流が深いアマルフィ市も表敬訪問。アルフォンソ・デル・ピッツオ市長の歓迎を受け、サレルノ、アマルフィ、遠野の3市の今後の交流の連携について意見交換しました。



Il 27 Giugno 2014. La delegazione tonese ha fatto una visita ufficiale a Salerno.

2014年6月27日、遠野市訪問団がサレルノ市を公式訪問。



温かい歓迎に感動

姉妹都市締結30周年を迎えた両市の絆をさらに深めるため、本田市長を団長とするサレルノ訪問団51人は6月25日から7月2日の行程で、イタリア・サレルノ市を訪問しました。航空機の故障により出国が1日遅れ、サレルノ市に到着したのは26日の午後11時頃。夜遅くにも関わらず、両市の交流の立役者でもあるサルバトーレ・フォルテ氏(名誉遠野親善大使、元サレルノ市副市長)らが温かく出迎えてくれました。長旅の疲れも吹き飛ばすほどの熱い歓迎に、団

風を感じて

Un cordiale benvenuto

姉妹都市締結30周年サレルノ訪問団はサレルノ市を訪れ、温かい歓迎を受けました。参加者は30年で培った絆を、未来へつなげることを約束しました。

員らは両市の友情を実感しました。翌27日、一行はサレルノ市役所を公式訪問。エルマンノ・グエッラ文化担当大臣(サレルノ市長代理)やサレルノ国際映画祭のマリオ・デ・チェーサレ実行委員長をはじめ多くの関係者が駆け付け、姉妹都市締結30周年記念式典が開かれました。式典では、記念品の交換や遠野親善大使の任命のほか、サレルノ国際映画祭「遠野賞」の盾の贈呈などが行われました。グエッラ文化担当大臣は「文化やスポーツ、経済など、さまざまな角度で遠野市との交流を継続していきたい」と話し、さらなる

